

明日より、今日の私は若い

台湾 許 師 蘭

私の祖母は日本統治時代に生まれ、日本教育で育。たので、私は子供の頃に当時の事情を祖母から色々教えてもらいました。「台湾は日本のおかげで現代化が始まり、衛生や生活のレベルが上が、てい、たんだま。」と言、て、祖母はいつもそのことに感心していました。そのため、私は幼い時から日本については台湾ととても近い国だと感じていました。中学生の時「ニュートン」という科学雑誌で私は日本の高度な技術力に大変驚いて日本へ留学しようという想いがだんだん芽生えてきました。

しかし、中学三年生の時父が経営する会社が倒産してしまいました。その後の六、七年間の生活はとても難しか、たです。その時幼稚園の時から選手を目指してず、とや、ていた水泳をやめざるをえなくなりました。選手になる夢と日本へ留学する夢が同時についえ

てしまいました。大学から一人で首都で生活して自分で学費と生活費を払うため、授業を受ける一方で色々なアルバイトしなければいけませんでした。その結果、成績もあまり良くなが、たし、時間もあまりなが、たので友達と遊ぶなくて寂しい思いをしました。私の青春は色がない日紙のようでした。兵役の後先輩に招かれて私は中学校でスポーツを教える一方で、水泳チームの監督になりました。この間土日祝日もあまり休まないで、学生と共に訓練し、試合に参加し、汗をかき、一緒に成長しました。私が指導した二人の学生は台湾の全国大会で一位になりました。私はいれしい反面、少し残念に思いました。これは学生は私の昔の一つの夢を實現してくれてくれたけれども、自分自身では實現できなが、たからです。私も選手として一位になりたが、たという悔しい気持ちがかこみ上げてきました。

五、六年間勤めて、やっと貯金が少しでき、留学というもう一つの夢のラストチャンス

ができました。そして私は親友のアドバイスに反して日本に来ました。三十歳にな、た私にはもう余地がありません。もし日本で失敗すれば、いい仕事や貯金など何も残りません。奨学金ももらっている外のクラスメート達と違って、私はアルバイトしないといけなストレスがあります。けれどもも各国から選ばれた優秀な皆と比べて、私も負けなくいつも上位になります。いつまでここで生活できるのかがわからない私は日本での毎日は神様からの贈り物のように大切に頑張っています。

人に誇れることはあまりありません。決して器用ではない私は今まだうまく生きられなくても、ひとつだけ言えるとしたら「明日より今の私は若い。」だから自分に強く言い聞かせています。「これからもこの道のりで何回転んでも必ず勇敢に立ち、走り続けるぞ。」と。